

妙国寺寺報

平成二十年一月発行 第八号



明けましておめでとうございます。

本年はネズミ年ということもあり、十二支の始まりの年、そして二〇〇八年「八」という末広がりの目出たい年、様々なことをスタートさせるのに最適な年ですね。本年も皆様のご多幸心よりお祈り申し上げます。

さて、ついに昨年十一月から妙国寺の新庫裡建設が始まりました。何十年もの間庫裡は私たち家族や訪れていらつしやる皆様方の歴史を雨の日も風の日も優しく見守ってくれていました。何度か改修工事を加えた末、建物自体をこの度、新築することとなりました。

「ちいさなおうち」という絵本をご存知ですか？むかし田舎の静かなところに、「私達のまごのまごの、そのまたまごのときまでこの家はきつと立派に建っていますように」という願いを込めた綺麗な丈夫な家が作られました。

家は住む人たちを温かく見守りながら木々や動物たちと自然の四季の変化を楽しみながら過ぎゆく時代を穏やかに見つめていました。しかし、時は流れ周囲の環境は段々変化していきます。田舎には道路ができ、車が走り、ビルが建ち、駅ができて田舎は都会へと変貌していきます。そ



んな騒がしい街の中で家はポツンと住む人もなく寂しく屋根も壁もボロボロになって建っていました。ある時そんな家に一人の女性が通りかかります。その人はこの家を建てた人の子孫だったのです。自分の先祖が大切に建てた家がこんな状態で可哀想に思った女の人は大工さんに頼んでその家の壁と屋根を建てられた時と同じように直してあげて、建てられた時と同じような景色の田舎に戻してあげます。家にはまた人が住んで面倒を見てくれるようになり、家はとても幸せに暮らしました。

家には人の色んな想いがこもって、色んな人たちの手によって出来上がります。出来上がった家は住人達や周囲の歴史を温かく見つめながらその場所で時間を刻んでいきます。今回の新庫裡建設では様々な人たちの思いがこもって建設を実行することができました。良い家というのは色んな人の想いと丈夫な材料があればこのお話のようにいつまでも受け継がれていくものです。願わくば私達のまごのまごのそのまたまごの時まで、いつまでも皆様と私達を繋ぐ心休まる温かい信仰の場として受け継がれていきますように・・・。「渡邊 義専」

平成二十年 年始の御挨拶

筆頭総代 上野 正見

平成二十年正月新年の御挨拶を申し上げますと共に、今年も何卒宜しく申しあげます。今年度は新庫裡の建設工事を進めて行く為に、出来るだけ皆様にかかるご迷惑のないように努力していきたいと思っております。

昨年平成十九年正月、御上人夫妻を始め、総代さん方（私は入院中で休んでいました）

より、檀家の皆さんに、新年の御挨拶と共に妙国寺の庫裡建立に心からなる御協力をと切々たる御願いを致しました。

この計画に檀家の皆様の御賛同を得ましたのも、関係者一同の熱意もさることながら、御仏のおかげと深く深く感謝致します。

その後建設委員会は、檀家の有限会社 片山ケン設計事務所に、設計並びに施工計画作成を依頼し、たいした障害も無くすこぶる順調に推進されました。

平成十九年十一月に三社による競争入札も無事終了して落札業者岩下建設株式会社が決定され、妙国寺の庫裡新築工事並びに渡り廊下及び既設棟改修工事が着工されることとなりました。十二月三日にはお上人、副住職を主に建設委員会及び裏方さん達、建設業者関係者により目出度く仏式による地鎮祭を執り行われました。此処を起点に引越し解体工事と始まり次々に着工されて行きました。平成二十年六月に完工予定です。

光陰矢の如く、一昨年平成十八年十二月中旬頃、私達夫婦は天領病院循環器科の夫婦用病室に入院してました。一昨年末、私は家内の介護に疲れてしまつて、体調不良となり歩くだけで疲れて、一寸した坂道を登つても息が切れるようになりました。早速循環器科医師に相談したところ、只今即刻入院を勧められました。然し、介護中の家内はどうしますかと聞き

ますと、一緒に入院したらいいですよ、とのあっさりした返事に安心して、何の躊躇も無く入院することとなりました。

総代としてお寺の最も大変な時期に入院してしまつて、何の役にも立たなくなり、居ても立つても居られず、申し訳なく、暫くしたら、平成十九年新年に檀家の皆様に、御挨拶と共に妙国寺の庫裡建立に心からなる御協力をお願いをする原案文を練り、御上人夫妻、総代さん方が、檀家の皆様に懇請する方向に動き出すことになりました。

年明けて昨年平成十九年一月になり、二十日頃私の体内にペースメーカーを入れ込むための手術が行われました。

一月下旬に退院して、二人とも何事も無く過ごした事は、仏様の御情けのたまものと心に深く刻み込み、感謝の気持ちに溢れました。

お知らせ

二月八日十一時から節分法要（星祭り）の後、豆まきと庫裡上棟式の餅投げを行います。どうぞお子さまやお孫さま、ご家族、お友達、連れだつてどうぞお参り下さい。良き思い出になると思います。

